

『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- ・「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- ・特に、プログラムのカリキュラムが、先修条件が設定されていて履修順序に留意する必要があるのか、比較的自由に履修できるのかで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- ・「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムも、それを上回る数の科目を提供しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- ・各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目(教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目)です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- ・また、「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- ・リベラルアーツ学群には、30のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

コミュニケーション学プログラム

<p>履修のしかた</p> <p>本プログラムは、学問としてのコミュニケーションを学べるように、理論と実践の科目を、基礎から専門へと積み上げていきます。関心によって、「異文化・国際」「集団・組織」「スピーチコミュニケーション」と3つの履修モデルがあります。</p> <p>・1年次にとる必修科目:基礎概念を学ぶ「現代コミュニケーション学理論」「集団コミュニケーション」、「コミュニケーション学研究法」を履修しましょう。また選択必修科目である「オーラルコミュニケーション理論」と「オーラルコミュニケーション実践」から1科目は履修しましょう。</p> <p>・2年次からとる専門科目:「異文化・国際」に関心のある人は、「異文化コミュニケーション A・B」「国際コミュニケーション」をとるとよいでしょう。「集団・組織」に関心のある人は、「対人コミュニケーション A・B」「組織コミュニケーション」「リーダーシップコミュニケーション」「ネゴシエーション」を履修しましょう。「スピーチ」に関心のある人は、「議論とディベート」や「口語表現発展演習」も履修するとよいでしょう。さらに「きくことの科学」や「非言語コミュニケーション」など、専門的な科目も用意されています。</p> <p>ゼミ論、また卒業論文を書くために、選択必修科目である「コミュニケーション学調査研究」か「コミュニケーション学質的研究」からどちらか1科目は履修しましょう。</p>
<p>他のプログラムとの関係</p> <p>学んだ知識や内容を明確に表現できるコミュニケーション能力はどの分野を専攻するにも必要な能力であり、コミュニケーション学は、多くの分野と強くかかわり合っています。心理学、社会学、言語学、文化人類学、国際協力、情報科学など、どれをとってもコミュニケーションと無縁の分野はありません。また、統合型の多文化共生とも深い関係があります。どのプログラムに進む人にも等しく役立つプログラムです。</p>
<p>留学・教職その他</p> <p>コミュニケーション学を学びたい人には、留学はおすすめです。文化的背景の異なる人とのコミュニケーションを通し、多くのことを体験し、学ぶことで自分自身がさらに成長することができます。在学中に、短期、長期のプログラムに参加して、ぜひ、自分で積極的に世界の人々とコミュニケーションをはかり、異文化コミュニケーション能力を伸ばして下さい。</p> <p>将来、教員を目指す人にも、コミュニケーション能力は必須ですから、必ず、複数科目、とくに、基礎科目の口語表現発展演習を取ることをおすすめします。そこで、さまざまな教育方法を体験してみてください。</p>
<p>学生へのメッセージ</p> <p>コミュニケーション学の楽しさは、学んだことがすぐ実生活に生かせることです。また、コミュニケーション能力は、就職し社会で生き抜いていく上で、最も必要とされるスキルです。学びを通して学生自らが自分のコミュニケーション行動の改善点に気づき、実践することで、更に改善を重ね、自分次第でクラスメートと一緒に成長していけるプログラムです。また、社会の様々な問題に対しても解決をする力をつけていくことができます。</p> <p>自ら積極的に授業に参加し、自分を向上させたいと願う意欲のある学生の履修を望みます。</p>

コミュニケーション学プログラム

1 異文化・国際コミュニケーション専門向け履修モデル

国際的な視野に立って物事を捉え、文化背景の異なる人々とより良い人間関係を築くことのできるコミュニケーション能力を身につけ、将来国際的な環境のもとで仕事をしたいと考えている学生向けのプログラム。

コミュニケーション学プログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
概論	◎	現代コミュニケーション学理論	2									
	◎	集団コミュニケーション	2									
対人				○	対人コミュニケーションA	2	○	非言語コミュニケーション	2			
				○	対人コミュニケーションB	2						
					きくことの科学	2						
文化・共生				○	異文化コミュニケーションA	2	○	異文化理解教育	2			
				○	異文化コミュニケーションB	2	○	多文化共生とコミュニケーション	2			
				○	国際コミュニケーション	2	○	ジェンダーとコミュニケーション	2			
							○	対人援助コミュニケーション	2			
集団・組織					組織コミュニケーション	2						
				○	リーダーシップコミュニケーション	2						
				○	ビジネスコミュニケーション	2						
					メディアコミュニケーション	2						
実践・演習		オーラルコミュニケーション理論	2	○	議論とディベート	2		説得コミュニケーション	2			
	○	オーラルコミュニケーション実践	2	○	ネゴシエーション	2	○	メディアエーション	2			
研究法	◎	コミュニケーション学研究法	2	○	コミュニケーション学調査研究	2						
				○	コミュニケーション学質的研究	2						

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 口語表現発展演習〔2〕
- ・ 専攻演習I〔2〕
- ・ 専攻演習II〔2〕
- ・ 多文化共生の人類学〔2〕
- ・ ジェンダーの人類学〔2〕
- ・ ASEANをめぐる国際関係I〔2〕
- ・ ジェンダーの社会学〔2〕
- ・ 多文化共生とやさしい日本語〔2〕

コミュニケーション学プログラム

2 集団・組織コミュニケーション履修モデル

組織におけるリーダーシップをとるために必要な小集団におけるファシリテーション能力育成の必須となる理論を学び、交渉や問題解決のためのコミュニケーション能力を養成する。

コミュニケーション学プログラム科目

level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
概論	◎	現代コミュニケーション学理論	2									
	◎	集団コミュニケーション	2									
対人				○	対人コミュニケーションA	2		非言語コミュニケーション	2			
				○	対人コミュニケーションB	2						
					きくことの科学	2						
文化・共生				○	異文化コミュニケーションA	2		異文化理解教育	2			
				○	異文化コミュニケーションB	2	○	多文化共生とコミュニケーション	2			
				○	国際コミュニケーション	2	○	ジェンダーとコミュニケーション	2			
							対人援助コミュニケーション	2				
集団・組織				○	組織コミュニケーション	2						
				○	リーダーシップコミュニケーション	2						
				○	ビジネスコミュニケーション	2						
				○	メディアコミュニケーション	2						
実践・演習	○	オーラルコミュニケーション理論	2	○	議論とディベート	2	○	説得コミュニケーション	2			
		オーラルコミュニケーション実践	2	○	ネゴシエーション	2	○	メディアエーション	2			
研究法	◎	コミュニケーション学研究法	2	○	コミュニケーション学調査研究	2						
				○	コミュニケーション学質的研究	2						

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 口語表現発展演習〔2〕
- ・ 専攻演習I〔2〕
- ・ 専攻演習II〔2〕
- ・ 社会・集団心理学〔2〕

コミュニケーション学プログラム

3 スピーチ・コミュニケーション履修モデル

本コースでは、修辞学(レトリック)と言語学の基礎を理解した上で、現代社会に生かせる効果的なパブリック・スピーチを行う実践力を養う。

コミュニケーション学プログラム科目

level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
概論	◎	現代コミュニケーション学理論	2									
	◎	集団コミュニケーション	2									
対人				○	対人コミュニケーションA	2	○	非言語コミュニケーション	2			
				○	対人コミュニケーションB	2						
				○	きくことの科学	2						
文化・共生				○	異文化コミュニケーションA	2		異文化理解教育	2			
					異文化コミュニケーションB	2	○	多文化共生とコミュニケーション	2			
					国際コミュニケーション	2		ジェンダーとコミュニケーション	2			
								対人援助コミュニケーション	2			
集団・組織					組織コミュニケーション	2						
				○	リーダーシップコミュニケーション	2						
				○	ビジネスコミュニケーション	2						
					メディアコミュニケーション	2						
実践・演習	○	オーラルコミュニケーション理論	2	○	議論とディベート	2	○	説得コミュニケーション	2			
	○	オーラルコミュニケーション実践	2		ネゴシエーション	2		メディアエーション	2			
研究法	◎	コミュニケーション学研究法	2	○	コミュニケーション学調査研究	2						
				○	コミュニケーション学質的研究	2						

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 口語表現発展演習〔2〕
- ・ 専攻演習I〔2〕
- ・ 専攻演習II〔2〕
- ・ 音声学〔2〕
- ・ レトリック〔2〕